

『大磯東部文化の香りを味わう！』続記

2021.11.16/18

佐々木 道雄 記

初代歌川広重（東海道五拾三次之内 大磯虎ヶ雨）

大磯町郷土資料館のウェブサイトより転載



昨年11月16日（火）、18日（木）の2日間、両日とも快晴の中、36名の参加を得て開催されました。本探訪では、大磯東部にある近代の文化人（加山又造、安田善次郎、福田恆存、堀文子）の邸宅・アトリエや旧東海道松並木に沿った史跡（化粧坂一里塚、化粧井戸）、古代高句麗から移住した地とされる高麗地区（高来神社、慶覚院、善福寺）を巡りました。本稿では感想は割愛し、探訪途中で参加者から寄せられた質問、筆者自身が感じた疑問点に対する回答を下記にまとめました。探訪後に大磯町観光協会に問い合わせでご回答いただけたもので、本紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

Q 1：「旧東海道松並木と江戸見附」他の表示板の英語表記が「Histric Sites of Shuhen OISO-JUKU」となっている。「Shuhen」という集落があったのか？

A 1：Shuhenはこのあたりの意味で英語表記は around here などですので、表示板は誤りです。看板作成時にチェックが欠けていたと思われます。

Q 2：「化粧坂入口信号機」のローマ字表示は上から修正がなされた如く、「kewaisaka」となっているが、「化粧坂」の読みは以前は「けしょうさか」であったのではないか？

A 2：化粧は「けしょう」、「けわい」の両方の読み方があり、大磯では以前から化粧井戸「けしょういど」、化粧坂「けわいさか」と呼ばれており、昔、ここが宿場の入り口であり、遊女の街であったことから化粧という文字が当てられたようです。

Q 3：「高来神社参道入口信号機」のローマ字表示は上から修正がなされた如く、「takaku-jinja」の表記になっているが近年変更になったのか？

A 3：Koma から Takaku になったのは明治 30 年です。それ以降は Takaku-jinja で呼ばれております。尚、ご指摘の信号機のローマ字の修正のようなものは他の信号機にも認められ呼称の変更とは関係がないと思われます。近くの信号機の三沢橋、大磯駅入り口などのローマ字も修正したような色合いでした。

Q 4：慶覚院の本堂屋根には菊の紋章があるが、何らかの由緒があるのか？

A 4：天皇家でこの菊の紋が使用されているのは、最澄が桓武天皇に比叡山で採取した 16 弁の菊の花を献上した事が始まりと言われ、その為、天台宗では菊の紋の使用を許されていると言われています。

Q 5：「古花水橋」の交差点信号機の読みは「ふるはなみずばし」となっている。「こはなみずばし」と読ませるのが普通とを感じるが、当地ではずっとこの読み方なのか。

A 5：以前より「ふるはなみずばし」で呼ばれております。

Q 6：西湘バイパス大磯側入り口の表記は「唐ヶ原」を「とうがはら」と読ませているが、平安時代の更級日記の表記では「もろこしがはら」となっています。当地では「もろこしがはら」ではなく、「とうがはら」の読みが一般化しているのか？

A 6：古くは「もろこしがはら」と呼ばれておりましたが、語呂が悪いと言うことで昭和 33 年、町名変更で「とうがはら」と呼ぶようになり現在に至ります。